主日の福音 2019/6/30(No.1010)

年間第 13 主日（ルカ 9:51-62）

救いであるイエスに出会ったなら前へ、前へ

通常の年間主日が始まり、今週は年間第 13 主日です。イエスに従う弟子の覚悟が問われています。それぞれ置かれている場所で問われる覚悟も違ってくるでしょう。自分の置かれている場所で忠実にイエスに仕えるための学びを得ることにしましょう。

留学なさる山内啓輔神父様は先週イタリアに旅立ちました。遠く離れて、存在を意識させる。それだけでもたいしたものだと思います。小教区を旅する一介の主任司祭は、次の任地に行けば過去の人になるのだろうなぁと思うと、いないのに意識させるのはすごいことです。山内神父様から、壮行会では大変お世話になりました、皆さんにもくれぐれもよろしくお伝えくださいと頼まれました。確かにお伝えしました。

壮行会で主任司祭からも一芸披露しました。山内神父様が喜んでくれたかは分かりませんが、実は私としては不完全燃焼だったので、完成度を高めて、私の霊名のお祝いの時に自分のためにもう一度やりたいと思っております。

皆さんは「NHK こころの時代」で前田万葉枢機卿様がインタビューを受けられて、それが放送されたのをご覧になったでしょうか。枢機卿様は平戸ザビエル教会から東京汐留のカトリック中央協議会事務局長の辞令を大司教様から受けて東京に行くことになった経緯を話しておられました。

「これは相談ですか、それとも正式な辞令ですか？」前田枢機卿様は当時お母様が司祭館で賄いをしてくださっていて、母を残して東京に行くことに大変迷っておられたのでした。けれども「正式な辞令です」と言われて心を決めて前に進んだ、そのような話をしておられました。

前田枢機卿様のモットーは「お言葉ですから網を下ろしてみましょう」です。それは、人間的な経験や知識を超えた何かを求められるときに、イエスに全面的に信頼して前に進みますという覚悟でしょう。カトリック中央協議会の局長から広島教区司教、さらに大阪大司教区の大司教、そして枢機卿と、一般社会で言えば自動車会社に入社してその会社の執行役員にまで上り詰めたようなものです。そのたびに自分の経験や知識を超える任務を前にして、イエスに信頼することでしか、この重責を担えない。前に進むために、あらゆる物を横に置こう。そういう覚悟を決めていったのだと思います。

この覚悟は、そのまま今週の福音の学びになると思っています。福音朗読の前半は、サマリア人から歓迎されない現実が紹介されています。弟子のヤコブとヨハネは「すぐに裁きを下してもらいましょう」と提案しました。経験と知識に照らして、イエスに対するサマリア人の応対は許しがたいと思ったのでしょう。けれどもイエスは、裁きを御父に任せ、前に進むことを選びました。エルサレムでまもなく迎えるイエスの受難と死が、目の前の出来事よりも優先だと考えたからです。御父が御子イ

エスに示す計画に、人間的な判断を横に置いて従ったのです。前に進む力は、御父への全面的な信頼、それだけでした。

福音朗読の後半は、三人の人がイエスに従おうとして、ただしこれだけは認めてくださいと条件を交渉します。些細な事柄もありますし、人間として当然の事柄もありました。けれどもイエスに従っていく、イエスと前に進むと決めたからには、「ただしこれだけは」という条件は一切横に置くべきなのです。

たとえとしてふさわしいか分かりませんが、ラグビーというスポーツは基本的に「前へ、前へ」陣地を進めていくゲームです。下がりながら前に進む、というものではなく、ひたすら前に進むために全員が一丸となります。「これだけは一歩引いて」という戦略は存在しないわけです。ラグビーボールを持つ選手を少しでも前へ進める。一歩でも前へ進める。そのためにすべての努力を注ぎます。

イエスの弟子になる覚悟というのは、たとえるならこのラグビーのようなものではないでしょうか。救い主イエスを、少しでも前へ進める。一歩でも前へ進める。そのための努力を惜しまないのが弟子です。弟子の覚悟です。この使命には、「一歩引いてからそのあと前に進む」という戦略はないのです。救い主イエスの言葉とわざを伝えるために、今は旗色が悪いから譲歩して、形勢が良くなったら一気に行こうとか、そういう戦略は存在しないのです。すべてを賭けて、すべてを置いて救い主イエスの言葉とわざを前へ進めるのです。

当然、置かれた場所で覚悟も違ってくるでしょう。小学生と堅信を受けた中学生でも違うでしょう。けれども置かれた場所でできることを、英雄的な勇気で行う覚悟は皆同じです。食前の祈りを習慣にしている人が、「この場ではこっそりお祈りして済ませよう」そんな戦略をとるべきではありません。常に「前へ、前へ」です。

「隣人を自分のように愛しなさい。」声を掛ければ助けてあげられる人がいるのに、「今日はやめておこう」そういう戦略は、イエスの弟子としてあり得ないのです。常に「前へ、前へ」。そうして私たちの弟子としての覚悟は果たされるのです。

年間第 14 主日(ルカ 10:1-12,17-20△10:1-9)